



第2回学校運営協議会報告

3月18日に第2回学校運営協議会が行われました。教育長から「鶴居ならではのコミスクの活動を」との挨拶のあと、宇野委員長の司会のもと、議事が進行しました。今年度の活動経過報告、各部会（各学校のCS部会）の活動報告が行われ、学校支援地域本部事業の全面的なバックアップのもと、地域人材

を活用した教育活動が展開されたことが確認されました。他町村のCSよりも進んだ取り組みです。

今年度は、学校運営協議会組織の立ち上げ、そして、合同研修等を通してコミュニティ・スクールについての理解が中心となりました。次年度は、コミスクの地域への周知や各部会の工夫

が必要であることが確認されました。そして、各部会の活動の他に、「学校運営協議会として何ができるか」について熟議を行いました。

全国コミュニティ・スクール研究大会（三笠）の参加者からの報告や提案を受け、次年度の方向性を決めるべく“熟議”を行いました。村として漢字検定をとの提案もありましたが、今回は、中学生になると校内での挨拶はある程度できているが、校外では挨拶が少し弱いのではないかという実態や他町村の実践から“挨拶”に焦点を絞って、話し合いを進めました。熟議のテーマは・・・

「今よりも、挨拶が飛び交う地域づくりのためにできること」

熟議より・・・

<村全体へのPRや啓発活動>

- ・CSとして、挨拶運動に取り組む事をPR（村の広報、CS通信、学校だより、IP放送での呼びかけ）
- ・あいさつタンチョウキャラクターの作成
- ・各店、役場、学校、家庭、共通のポスター掲示、旗
- ・小中の児童会、生徒会が連携してあいさつ運動を推進する。
- ・スローガン、キャッチフレーズ「日本一あいさつも美しい村」など

<学校・家庭・地域での役割分担>

- ・まず、家庭での挨拶を習慣づける
- ・地域では、大人からも挨拶する（声をかける）
- ・校外でのあいさつ運動（あいさつのよさを実感させる）
- ・学校としても経営の重点に位置づけた活動を継続する

⇒地域の中で挨拶が今よりも飛び交うようになるとコミュニケーションが今よりも活発になり、地域の安全・安心にもつながる

今回の“熟議”から見えてきたことは、それぞれが挨拶の重要性は理解しており、学校や家庭でも指導や活動はしていること。今後は、学校運営協議会が、まず発信し、ともすれば個々で活動やよびかけを行っていたところを地域や職場にも呼びかけ、学校、家庭で同時期に「あいさつ運動」や啓発を行うことで、今よりも挨拶の響く地域になるのではないかとの方向で話がまとまりました。具体的な実践については、次年度となりますが、「挨拶」に絞って話し合いを進めることで、できてはいるが、さらなる向上が期待できると感じました。

鶴居中学校区学校運営協議会で目指す姿として、「たくましく生き抜いていく力の育成」があります。生きていく上でコミュニケーションの第一歩となる「挨拶」について、学校運営協議会として発信していきます。

